

生物多様性広島戦略 ひろしま県民いきもの調査

ひがたのいきもの観察会

太田川放水路 実習観察会 報告書

開催日時：平成30年9月23日(日) 13:30~15:30

場所：太田川放水路の人工干潟（広島市西区中広町の河川敷 広島高速4号高架下）

講師：〔魚介類〕高松 篤志*・若尾 拓志*

〔植物〕大竹 邦暁* 〔放水路の歴史と環境〕森島 誠司*（山手町町内会長）

（*中電技術コンサルタント株式会社）

主催：広島県環境県民局 自然環境課

共催：山手町町内会

次第に秋の気配が深まる9月下旬、まだ夏の水辺が残る太田川放水路の干潟で、幼児から大人までの男女22名が集まり、『広島県民いきもの調査』の一環として「実習観察会」が開催されました。

広島県は、生物多様性の保全と活用のために、県内の生物情報を集める『広島県民いきもの調査』を推進しています。生物情報の収集には、「見つかったいきものがどのような場所に住んでいたのか」の情報がとても重要です。参加者の皆さんに、いきものの種類とすみかの違いについて実感していただくことが、今回の実習観察会の主な目的です。

観察会の始まりは、これまでの『広島県民いきもの調査』の結果発表から始まりました。県内では珍しいハクセンシオマネキが、今いる場所の近くで見つかったことが分かりました。『今日、見つけれられるかもしれない！』期待が高まります。

捕まえるのが難しい魚は、あらかじめ講師の若尾さんが捕まえていたもので予習です。似たもの同士の魚は上から見るとさっぱり見分けがつかませんが、横から間近で見ると特徴がよくわかります。「幅が狭いケースに入れるとほら、頭が黄色いのが見えてでしょう。」チチブハゼです。他にもカニの見分けのポイントなどを予習して、いざ、フィールドへ。

開催地の干潟は、都市近郊ではとても珍しい『塩生植物群落』があります。こうした場所には様々な環境があり、多様な干潟のいきものすみかとなります。広島高速4号線の高架下になっている会場は、その中でも日陰で草があまり生えず、干潟の地面の



←『広島県民いきもの調査』の結果発表や広島県版レッドデータブックの改訂についてのレクチャー

→『干潟』ってなに？、「放水路」って昔なかったの？そんな疑問に地元町内会会長の森島さんが答えます。



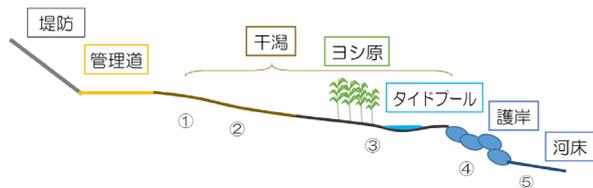
魚を捕る若尾さん

捕まえるのが難しい魚は、あらかじめ若尾さんが捕まえておいた実物を見て予習です。



会場近くの塩生植物群落の立て看板

会場の周りは高架の日陰になっていて草が生えず、干潟の地面の様子やいきものがよく見えます。



①管理道の近く：主に砂地でフクドや小さなヨシが生え



②干潟の高いところ：砂地



③ヨシ原の近くのタイドプール



④捨て石護岸の周り



⑤泥地の河床（大潮で水面より高くなっている）

様子やカニの行動がよく見えます。堤防から水際までの環境の配置図を参考に、講師に種名を教えてもらいながら、いきものを見つけた場所と地面の様子（砂か泥かの区別など）を観察ノートに記録してもらいました。

まず、水辺から一番離れた管理道の近くは、大潮のときだけ水につかります。泥が混ざった砂地で、大きな巣穴の周りに黄色っぽいアシハラガニがたくさんいました。また、フクドや小さなヨシの根元には、ハサミの先だけが赤いユビアカベンケイガニがいました。

少し低くなった場所は砂が最も多く、小ぶりの巣穴が空いていました。あちこちの穴を掘ってみるのですが、主が見つかりません。何の巣穴だろう...

さらに下ると、捨て石護岸の近くは窪地になって砂と泥が溜まり、タイドプールもありました。日が当たる場所には背の高いヨシも生えています。大小さまざまなカニがいました。おっとりして捕まえやすいのは、白くて細かいチゴガニです。夏の盛りは、群れでハサミを振って踊っているように見えます。他のカニはすばしこく、すぐに水の中やヨシの茂みに隠れてなかなか捕まりませんが、たくさんのアシハラガニと、平べったいカクベンケイガニの他、珍しいハマガニが見つかりました。ハマガニは眉間から背中へのまっすぐな溝が特徴です。小さな個体でしたが、成長するとこの干潟では最も大きくなるカニです。魚もいました。チチブハゼと、なんとメダカです。メダカは、川魚の中で最も塩水に強い仲間の一員なのだそうです。

捨て石護岸には、黒くて大きいカニがたくさんいます。ごつごつして毛深いのかつこのカニは、その名もクロベンケイガニです。岩の隙間に逃げ込んでなかなか捕まりません。護岸の端の方で、泥の中に追い出すと、なんとか捕獲できました。

最後は水辺です。ちょっと傾斜が急なので、慎重に調査してもらいます。護岸と同じクロベンケイガニの他に、泥にまみれてケフサイソガニが見つかりました。小さめのカニで、ハサミの二股になる部分に、ふさふさと毛が生えています。ここではスジエビモドキを一所懸命集めたお子さんがいました。

皆がいろいろな場所を一巡した後、最後に“主”

が見つからなかった砂地の周りを囲んでしゃがみ、巣穴から出てくるのをじっと待つことにしました。みんながじっとしていると、数分経って一つの穴から細長いカニが半分だけ出てきました。「あ！いた！」と思わず腰を浮かすとすぐ引っ込んでしまいました。片手に大きな白いハサミ！まぎれもなくハクセンシオマネキでした。



一瞬をとらえて撮影された
ハクセンシオマネキ



皆で捕まえたいきものを持ち寄って、
高松さんの解説を聞きます。

大人も子供も、いつまでも飽き足らない様子でしたが、次第に潮が満ち、終わりの時間が近づいてきたため、捕まえたいきものを持ち寄って講師の高松さんからの解説です。白いバットや水槽の中に集められたいきもの(ほとんどカニ)を挟まれないように上手に取り上げながら、順に種名と見た目の特徴、また、子供たちにどういふ場所で見つけたかを尋ねて、水につかることが多いかどうか、地面の様子はどうかなど、住みかの特徴についても解説してもらい、みんなで観察ノートに記録しました。

見つかったカニは全部でなんと7種類、他に、魚が2種類、エビが1種類、あとアナジャコ、他に、あまり目立ちませんが、ヨシ・フクドのほか、塩生植物としてハマサジ、ハママツナ、ナガミノオニシバなども花をつけていました。

観察会の振り返りでは、参加者みなさんから、『広島県民いきもの調査』に参加したい。」との嬉しいコメントのほか、「カニの種類が意外と多かった。」「いろんなカニがいることに気が付いた。」との声が上がりました。以前は、『一見してカニ』だったものが、ポイントとなる色や形、それに住みかの違いをとらえて見ると、見分けが分かってくる楽しみは、いきもの調査の醍醐味です。その一端を実感していただけたかな、と、将来のいきもの調査員に期待が膨らんだ実習観察会でした。 [実習観察会スタッフ]



植物の近くにいるカニ



砂と泥が混ざった
いろんな場所にいたカニ



毎日水につかる砂泥地にいたカニ



毎日水につかる護岸にいたカニ



砂が多くよく水に
つかるところにいたカニ

ならび 2024
09/21 15:55